

<目次>

APLA第6回定期総会報告	西三河ブロック広報部長	中根 輝彦
愛知県防災局を表敬訪問	東尾張ブロック広報部長	藤野 昌之
東京国際消防防災展2008	本部広報部長	百合草 五男
防災よもやま話 21 70年前の諫言	名古屋大学教授	福和 伸夫
防災情報等		
全体情報及び地域情報		
編集後記		

APLA第6回定期総会報告

西三河ブロック広報部長

中根 輝彦



4月27日、愛知県産業貿易館西館にて第6回定期総会が開催されました。今回より代議員制となり、会員10名あたり1名の代議員が選出され、総会に臨みました。議事は議案書どおりすべての議案が可決されました。事前の準備・当日の運営にかかわった皆さまの努力の賜物と思います。出席された代議員の皆さまもお疲れ様でした。

以下、主な議決事項を報告します。

会則変更：

(第6条 会員) 本会の会員は、「あいち防災カレッジ」、「あいち防災リーダー養成講座」或いは「市町村主催防災リーダー養成講座」などを修了し、第4条の目的に賛同し、会費を納入したものとする。

下線の部分が追加され、平成19年度に愛知県防災局が開催した養成講座や市町村主催の養成講座の修了者も、会員の対象とすることになりました。

会長交代：

あいち防災リーダー会の設立時より昨年度まで5年間会長を務められた太田貴代子さんに替わり、名古屋ブロック代表の早川澄男さんが平成20年度の会長を務められます。

三重大学大学院工学部 川口 淳 准教授 講演

「防災リーダーに望む～地域防災の活性化～」と題して、三重県鳥羽市浦村町今浦地区（漁村集落）の取り組みを紹介していただきました。啓発イベントなどは多数事例がありますが、自主防災会の地道な活動を丹念に追いながら活動を整理したものは少なく、たいへん貴重な事例紹介となりました。川口先生が自主防の活動をどのようにリードしていったか、地域住民や自主防役員がどのように反応したか...など、もっと詳しくじっくり聴きたいと思いましたが、残念ながら時間の制約があり、ちょっと消化不良な気がしました。次は自分たちがこのような事例に当事者として登場できるようにしたいものです。



懇親会

立食パーティ形式の会食で、参加した会員が自由に交流を楽しみました。途中、ブロックごとに会場中央で今年度の予定や一人ずつ自分の思いを発表し、みんなで英気を養いました。

愛知県防災局を表敬訪問

東尾張ブロック広報部長

藤野 昌之

梅雨入りしたとは言え、晴れ間がのぞく6月6日（金）10時30分、平成20年度本部署員11名が愛知県庁を訪れ防災局長室で小出防災局長、金田礼市防災局次長に挨拶、引き続き懇談。概要は下記の通りですが、お互いに忌憚のない意見交換で予定していた時間をオーバーした程でした。

その後場所を移し、危機管理課加藤課長補佐他3名の皆様と具体的内容で会談終了したのは12時10分を過ぎていました。

出席者

愛知県防災局

小出 茂樹 防災局長
金田 礼市 防災局次長
小林 壮行 防災局防災危機管理課長
啓発・育成グループ
加藤 義輝 防災危機管理課課長補佐
川口 信司 防災危機管理課主任主査
石川 盛久 防災危機管理課主任
加藤 亮延 防災危機管理課



あいち防災リーダー会

早川 澄男 会長
加藤千恵子 東尾張ブロック代表
倉知 彰治 西尾張ブロック代表
福田 学 海 部ブロック代表
保坂 松男 知 多ブロック代表
太田貴代子 西三河ブロック代表
大久保育夫 東三河ブロック代表
伊藤 善之 本部事務局長
浜辺 文 本部会計
稲垣 繁輝 本部研修部長
藤野 昌之 本部広報部長代理

懇談の概要

小出局長 挨拶：7年間の消防団経験があり防災意識を常に持っております。防災について地域力が問われている現在、自分達の地域は自分達で守る自主防災に「リーダー会」の力を是非貸していただきたい。20年度から「地域防災リーダー養成講座」が市町村に移管されるが、15の市町村で、それぞれのカリキュラムから選定されたメニューへの助成が決定している。

早川 会長：今年「リーダー会」独自の養成講座「あいち防災リーダー塾」4日間を計画しているのでご支援を願いたい。

小出局長：是非モリコロ基金を活用されては如何ですか。

各ブロック代表：ブロック内の活動状況と要望が話された。

危機管理課長：1.「地域防災リーダー養成講座」を予定している市町村で県が具体的メニューの助成を決定している所は次の通り。
豊橋市、半田市、豊田市、安城市、西尾市、小牧市、新大府市、知多市、日進市、北名古屋市、甚目寺町、武豊町、幸田町、一色町
2.20年度県総合防災訓練が8月31日碧南市臨海公園で開催される。

3.愛知県主催の防災セミナーが11月15日稲沢市、12月6日東郷町、1月25日岡崎市で開催される。

東京国際消防防災展 2008

本部広報部長

百合草 五男

「東京国際消防防災展 2008」この招待状を今、手にしているわけですが防災展に行く事について、つい1ヶ月までには想像もつかないことでありました。

そんな私がなぜ行く事になったのでしょうか？

おりしもこの防災展がおこなわれる6月5～8日は、6日「県防災局との懇談会等」7日に「あいち防災リーダー会第2回ファシリテーター研修会」8日はあいち防災リーダー会・海部ブロックで初参加となる「海部地方総合防災訓練」が行なわれる予定でした。そんな私に職場から“東京出張”の指示がありました。しかもその出張内容はその防災展の隣接棟（東京ビックサイト）にある同時開催会議だったのです。私は防災展は出張日の前6日に一足先に向かいました。

会場のビックサイト西ホールは想像もつかない広さの中に各防災関係会社・団体のブースが（213社・1090ブース）

がひしめきあっていました。とても1日でブースを見ることのできないことを察知しました。また、各ワークショップは1日に平均4回、防災セミナーも1日に2回、講演・シン

ポジウムも1日に平均3回もあり、屋外では消防演習・救助活動デモ・消防車乗車（ハシゴ車など）&放水体験が行なわれており、事前の会場・催物の把握を怠ったことをかなり反省しました。

その中で「防災シンポジウム分科会（地域の防災リーダーのあり方について）」を聞くことができました。

これは、関東圏の消防団・女性消防団・消防ボランティア防災訓練実行委員会・町内会・企業・女性防火の会からの活動紹介・苦労話がメインでありましたが、共通して思ったことは「資金集めが巧い」ことでありました。各戸に住宅用火災警報器・ヘルメット・救急セットを配ったりとか

行政にあまり頼らずにそのようなことができるのは、関東圏の住民1人1人が防災会と災害時の応援等を視野に入れていることが解りました。

さて、この東京国際消防防災展ですが前回は2003年に行なわれていて5年毎の開催だと思われます。次回は当然のことながら、2013年（平成25年）に行なわれると思ひます。次回は研修旅行等にしてリーダー会員が複数で各催物に配備するような姿勢で行かれることをお勧め致し



東京ビックサイト



東京国際防災展受付



清瀬女性防火の会の発表

ます。さすが首都東京です 財力と最新の防災情報に触れた数日でした。

防災よもやま話 21 70年前の諫言 名古屋大学教授 福和 伸夫

皆さんこんにちは。今年のあいち防災リーダー会の総会でリーダー会の船頭が太田会長から早川会長にバトンタッチしました。太田会長は、その人間味豊かな活動スタイルによりリーダー会を立派に独り立ちさせてくれました。



本当に、太田さんには「感謝！」です。バトンを渡された

早川さんは、太田さんを副会長として支えながら、抜群の行動力で、リーダー会の活動を引っ張っていらっしゃいました。3月29日に開催した「防災フェスタ2008 in みなと」でも、早川さんの力がいかに発揮されました。早川さんのリーダーシップの下、皆で協力して、息長く活動を継続していく工夫をしていきましょう。

私は、APLA総会の翌週に、女房の祖母の墓参りで茨城に出かけました。その際に、鹿島神宮に赴き、要石にお参りしてきました。要石はびっくりするほど穏やかでひっそりしたものでした。地表に見える石はとても小さく見え、これが、大ナマズを押さえつけているとは思えないものでした。鹿島神宮を参拝した夜は、ナマズの天ぷらも食し、地震退治をしてきました。翌朝は、潮来の水郷地帯を船で回りましたが、このような軟弱地盤の地域が歴史的に存続しているのは、茨城県では大地震を殆ど経験していないためと、思わず感じ入りました。茨城県人によると、いまだ、茨城では地震の犠牲者は一人もいないとのこと（未確認です）。要石の力を思わずにいられません。

さて、今回は、今から74年前、夏目漱石の弟子でもあった著名な物理学者・寺田寅彦の一文を紹介しましょう。寺田寅彦は、「天災は忘れた頃にやってくる」との名言を残した人だとも言われています（実際には、この言葉を直接的に語ったわけではないとの説もありますが、同様の意味の発言を何度もされていたようです）。この一文は、「経済往来」1934年11月号で「天災と国防」（青空文庫にて閲覧可能、http://www.aozora.gr.jp/cards/000042/files/2509_9319.html）と題して発表されました。当時の社会の有りように対して厳しく警鐘を鳴らしています。現代を生きる私たちにとって、耳が痛い話ばかりです。下記に、一部を引用しますのでご覧下さい。

『いつも忘れられがちな重大な要項がある。それは、文明が進めば進むほど天然の暴威による災害がその劇烈の度を増すという事実である。人類がまだ草昧の時代を脱しなかったころ、がんじょうな岩山の洞窟の中に住まっていたとすれば、たいいていの地震や暴風でも平気であったろうし、これらの天変によって破壊さるべきなん

らの造営物をも持ち合わせなかったのである。もう少し文化が進んで小屋を作るようになって、テントか掘っ立て小屋のようなものであって見れば、地震にはかえって絶対安全であり、またたとえ風に飛ばされてしまっても復旧ははなはだ容易である。とにかくこういう時代には、人間は極端に自然に従順であって、自然に逆らうような大それた企ては何もしなかったからよかったのである。文明が進むに従って人間は次第に自然を征服しようとする野心を生じた。そうして、重力に逆らい、風圧水力に抗するようないろいろの造営物を作った。そうしてあつぱれ自然の暴威を封じ込めたつもりになっていると、どうかした拍子に檻を破った猛獣の大群のように、自然があばれ出して高樓を倒壊せしめ堤防を崩壊させて人命を危うくし財産を滅ぼす。その災禍を起こさせたもとの起こりは天然に反抗する人間の細工であると言っても不当ではないはずである、災害の運動エネルギーとなるべき位置エネルギーを蓄積させ、いやが上にも災害を大きくするように努力しているものはたれあろう文明人そのものなのである。もう一つ文明の進歩のために生じた対自然関係の著しい変化がある。それは人間の団体、なかんずくいわゆる国家あるいは国民と称するものの有機的結合が進化し、その内部機構の分化が著しく進展して来たために、その有機系のある一部の損害が系全体に対してはなはだしく有害な影響を及ぼす可能性が多くなり、時には一小部分の傷害が全系統に致命的となりうる恐れがあるようになったということである。単細胞動物のようなものでは個体を切断しても、各片が平気で生命を持続することができるし、もう少し高等なものでも、肢節(しせつ)を切断すれば、その痕跡(こんせき)から代わりが芽を吹くという事もある。しかし高等動物になると、そういう融通がきかなくなつて、針一本でも打ち所次第では生命を失うようになる。(中略)文化が進むに従って個人が社会を作り、職業の分化が起こって来ると事情は未開時代と全然変わって来る。天災による個人の損害はもはやその個人だけの迷惑では済まなくなつて来る。村の貯水池や共同水車小屋が破壊されれば多数の村民は同時にその損害の余響を受けるであろう。二十世紀の現代では日本全体が一つの高等な有機体である。各種の動力を運ぶ電線やパイプやが縦横に交差し、いろいろな交通網がすきまもなく張り渡されているありさまは高等動物の神経や血管と同様である。その神経や血管の一か所に故障が起こればその影響はたちまち全体に波及するであろう。今度の暴風で畿内地方の電信が不通になったために、どれだけの不都合が全国に波及したかを考えてみればこの事は了解されるであろう。これほどだいじな神経や血管であるから天然の設計に成る動物体内ではこれらの器官が実に巧妙な仕掛けで注意深く保護されているのであるが、一国の神経であり血管である送電線は野天に吹きさらしで風や雪がちょっとばかりつよく触れればすぐに切断するのである。市民の栄養を供給する水道はちょっとした地震で断絶するのである。(中略)それで、文明が進むほど天災による損害の程度も累進する傾向があるという事実を十分に自覚して、そして平生からそれに対する防御策を講

じなければならないはずであるのに、それがいっこうにできていないのはどういうわけであるか。そのおもなる原因は、畢竟そういう天災がきわめてまれにしか起こらないで、ちょうど人間が前車の顛覆を忘れたところにそろそろ後車を引き出すようになるからであろう。しかし昔の人間は過去の経験を大切に保存し蓄積してその教えにたよることがはなはだ忠実であった。過去の地震や風害に堪えたような場所にもみ集落を保存し、時の試練に堪えたような建築様式のみを墨守して来た。それだからそうした経験に従って造られたものは関東震災でも多くは助かっているのである。大震後横浜から鎌倉へかけて被害の状況を見学に行ったとき、かの地方の丘陵のふもとを縫う古い村家が存外平気で残っているのに、田んぼの中に発展した新開地の新式家屋がひどくめちゃめちゃに破壊されているのを見た時につくづくそういう事を考えさせられたのであったが、今度の関西の風害でも、古い神社仏閣などは存外あまりいたまないのに、時の試練を経ない新様式の学校や工場が無残に倒壊してしまったという話を聞いていっそうその感を深くしている次第である。やはり文明の力を買いかぶって自然を侮り過ぎた結果からそういうことになったのではないかと想像される。新聞の報ずるところによると幸いに当局でもこの点に注意してこの際各種建築被害の比較的研究を徹底的に遂行することになったらしいから、今回の苦い経験がむだになるような事は万に一つもあるまいと思うが、しかしこれは決して当局者だけに任すべき問題ではなく国民全体が日常めいめいに深く留意すべきことであろうと思われる。』

社会を豊かにし中央集約化することが、社会を災害に対して脆くすることを、70年以上も前に明解に指摘しています。防災よもやま話でも、このところシリーズとして、現代と過去の比較をしながら、現代社会の災害に対する脆さについてお話ししてきましたが、寺田寅彦の名文を読むと、改めて、教育の大事さを感じます。

防 災 情 報 等

- 全 体 情 報 -

名古屋大学防災アカデミー情報

- 第41回名古屋大学防災アカデミー

日時：7月18日(金) 18:00 ~ 19:30

場所：環境総合館1階レクチャーホール

講師：宇井忠英(環境防災総合政策研究機構専務理事/北海道大学名誉教授)

「三松正夫が種を蒔いた火山防災文化 北海道・有珠山では何が行われてきたか」

- 第42回名古屋大学防災アカデミー

日時：9月17日(水) 18:00 ~ 19:30



場所:環境総合館1階レクチャーホール
講師:水谷法美(名古屋大学大学院工学研究科教授)
「沿岸災害と海岸工学」

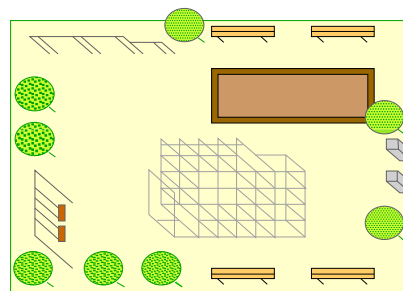
あいち防災リーダー会1泊研修旅行情報

日時:7月4~5日(金~土)
場所:福井県丸岡町(福井地震震源地)・石川県輪島市・穴水町(被災地視察)
参加者募集継続中 (まだ3名ほど席の空きがあります。参加希望は各B役員まで)

防災啓発行事情報

モリコロパーク2周年記念行事お誕生日会(仮称)

日時:7月19~20日(土~日)
場所:愛知県長久手町(愛・地球博記念公園)
愛知県総合防災訓練
日時:8月31日(日)9:00~
場所:愛知県碧南市臨海公園



- 当ブロック情報 -

<< 愛知県消防操法大会における防災啓発活動 >>

本件ブロックのイベントとして活動しますので、都合つく方のご参加をお願いします。参加頂ける方はブロック事務局長伊藤(TEL090-4794-8863)へ7月5日までにご連絡ください。

日時 平成20年7月12日(土) 7:30~17:00
場所 一宮市千秋町 県総合運動場
防災啓発内容 災害パネル展示

防災関連DVDビデオ紹介

防災グッズ・家具転倒防止器具展示

木造住宅耐震化促進パネル展示

ぶるる君、紙ぶるる、ストローハウス、缶バッジなど

編集後記

梅雨空を見ながら、広報をはじめ担当し、悪戦苦闘しています。一宮で井戸掘りをしていたら、東北で大地震が発生のニュースを聞きました。被災された方々御見舞い申し上げます。

想定外の所で震災、想定内のはずの東海地震。こちらはエネルギーが地下に溜まる一方。発生したら、どれほどの被害が恐らく想定外の大被害が発生か。恐ろしいことを想像するより、紫陽花を眺めた方がどれほど気が休まることであろうか。情報を逃さないようお互い共有したいものです

